

授業科目名・形態	病態治療学Ⅰ(放射線)	演習	必修・選択の別	必修	
担当者氏名	吉野 浩教・小山内 暢	開講期	2年前期	単位数	2

【授業の主題】

放射線医学は急速な発達を遂げ、現代の医療には欠かせないものとなっている。しかし、放射線は人間にとって利益ばかりではなく、不利益をも与える両面性を併せ持つ。このため医療従事者は、放射線に関する基礎的知識とリスクマネジメントをよく理解した上で医療を受ける人たちに接する必要がある。本講義では、診療に携わる看護師として必要な放射線の知識と放射線診断・治療の現場において必要となる放射線看護学の基本的事項を学ぶ。さらに、放射線被ばくのリスクと放射線防護を科学的な根拠に基づき理解する。

【到達目標】

1. 放射線の基礎知識について理解すること。
2. 放射線画像診断の原理と適応について理解すること。
3. 放射線治療の原理と適応について理解すること。
4. 放射線被ばくによる人体影響と放射線防護について理解すること。

【授業計画・内容】

- 第1回 放射線の基礎, X線一般撮影の概要(吉野)
- 第2回 X線CT検査, 血管造影, IVR (interventional radiology)の概要と理解(小山内)
- 第3回 MRI, 超音波検査および核医学検査の概要と理解(小山内)
- 第4回 放射線治療の概要と理解(吉野)
- 第5回 放射線被ばくと放射線防護(吉野)
- 第6回 終講試験

【授業実施方法】

スライド(パワーポイント), 資料および板書にて講義する。
 毎回の講義の最初または最後に、講義内容に関する小テスト(出席確認を兼ねる)を行う。
 質疑形式で進めるので積極的な姿勢で臨むこと。

【授業準備】

シラバスで授業の内容を確認し、配布資料や教科書を用いて予習をしておくこと。

【主な関連する科目】

成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、老年看護方法論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学(第9版) 発行 医学書院

【参考文献】

特になし

【成績評価方法】

筆記試験70%, 出席状況授業態度・小テスト等20%, ~~レポート~~課題レポート10%で総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

- ・ 予習, 復習を十分に行っておくこと。
 - ・ 小テストのウェイトは大きいので, しっかり講義を聴き, 理解した上で設問に答えること。
 - ・ ~~5回中3回欠席すると試験を受けられないので注意すること。~~
- 質問や連絡に関しては, 電子メール(hyoshino@hirosaki-u.ac.jp)で随時受け付ける。